

# Next Career Next Japan

國家公務員中途採用



# 自分の経験を、日本の未来に。

国全体・国民全体のために働く。それが国家公務員の使命です。特定の個人や組織のためではなく、限りなく広い、「日本」という国をフィールドに、日本の課題を解決し、最適解を探し、豊かな国をつくり上げていく。そのために、あなたの経験や知識、専門性が必要です。強い問題意識を持ち、世界や日本に横たわる大きな課題に挑戦し続ける。よりよい日本の未来のために。次の世代のために仕事をする。仕事というより、むしろ「生き方」に近いのかもしれませんが、あなたがそんな思いに共感できるなら、国家公務員という「生き方」を選択しませんか。国家公務員というキャリアを志しませんか。あなたの経験こそが、日本の未来につながっているのですから。



## 何のために仕事をするのか。

### 国の施策をPRする。

新卒で入社したのは、電力会社でした。小さい頃から環境やエネルギーに興味があって、インフラに携わりたいと思っていたんです。当時の仕事は、オール電化の販売営業。オール電化の営業としては一期生だったので、ゼロからノウハウをつくり、マニュアル化して、後輩たちに伝承していく。この一連のプロセスを経験できたのは、今の仕事に非常に役立っています。入省後の部署では、環境省の施策の中で何に注力してPRしていくのかという、戦略立案と各所の調整を担当しています。カッコよく言うと企業の企画戦略部門。なぜPRする必要があるのかと言えば、政策はつくって終わりではないからです。政策を動かすのは企業や国民の皆さんです。知っていただき、動いてもらわなければ意味がない。たとえば、環境の施策を進めていく上で、地方公共団体や企業に使っていただきたい補助金があったとします。「これをやっていただければこういうメリットがあります」と、どんどん発信しなければ、せっかく確保している交付金や補助金が使われません。使われて初めて環境の施策が推進されていきます。だから、PRすることが重要なんです。

### 環境事業を、持続可能なビジネスに。

今、PRの力を入れているのが、国立公園満喫プロジェクトです。国立公園を世界基準の「ナショナルパーク」としてブランド化する。

2020年までに、外国人国立公園利用者数を2015年の430万人から1000万人に増加させることを目指しています。まずは、日光国立公園、伊勢志摩国立公園など8つの国立公園を選定。利用の大幅な拡大を図るための取り組みを推進しています。個人的な目標で言えば、環境のビジネス化に力を入れていきたいですね。私のイメージですが、日本はまだまだ外国に比べて社会事業が進んでいないように感じます。企業が「ヒト・モノ・カネ」をベースにして継続的に活動するのと同じように、持続可能な事業運営できる仕組みをつくっていききたい。たとえば、環境省の施策の中から重点的に取り組むものを毎年冊子にまとめています。それを見た投資家に、環境事業は可能性がありそうだから投資しよう、これはビジネスに使えるぞと、動いてもらえるようにしたいと思っています。もちろん大変なこともあります。すべての仕事「日本のため」「国民の皆さんのため」に環境を良くしていくことにつながっているので、自分の中に迷いはありません。充実した日々を送ることができています。

### 大久保 千明

経験者採用試験【係長級(事務)】

環境省 大臣官房総務課 政策評価室 係長 / 平成27年4月入省

電力会社、人材会社を経て現職。中学生の頃から環境問題に興味があり、たまたま見つけた経験者対象の採用試験で転身を決意。「環境・エネルギー」「公共性」「腰を据えて貢献できる場」の3つの軸が叶えられる場所で仕事がしたい、という夢を実現する。



## 様々なキャリアが活かせる場所。

### 枠組みそのものを最適にする、国家公務員

司法試験に合格したあと、ちょっと変わったキャリアを歩んできました。通常は、試験に合格すると、裁判官や弁護士になるための司法修習という研修に1年通います。私はすぐに司法修習生にはならず、法科大学院の恩師の弁護士事務所ではばらくアルバイトを経験しました。その後司法修習生になり、弁護士や裁判官、検察官の仕事を間近で体感。さらに参議院議員秘書を経て、ようやく現在の道にたどり着きます。弁護士も議員秘書も、それぞれ社会的使命もあり、やりがいも大きな仕事です。ただ、自分の中には何かモヤモヤした想いがずっとありました。モヤモヤの正体に気づいたのは、司法実習生として学んでいたころ。弁護士の仕事は、誤解を恐れずに言えば、いまある法制度を手がかりにして、目の前の困っている人の悩みを解決することです。でも私は、培ってきた知識を武器に、『今ある枠組みの中で解を探す』より、『枠組みそのものをより良いものにしていく』仕事をしてみたいと思ったんです。現在の使命は、まさにそうした枠組みを1から作っていくこと。非常に刺激的な毎日を送ることができています。

### 20年ぶりの大改正に携わる。

厚生労働省を選んだのは、女性の育児と仕事の両立支援に興味を抱いたことがきっかけです。司法修習生時代に関わったある事件で、女性が働きやすい社会環境の整備が急務だと強く実感したんです。入省以来ずっと、育児・介護休業法の改正作業に携わら

せてもらっています。まさにやりたかった仕事ですね。今回の改正は、20年ぶりの大改正。たとえば、介護休業は最高で93日取れるのですが、今までは回にまとめてしか取得できませんでした。それが最高3回まで分割できるようになったんです。このような法改正の時は、有識者を集めた研究会というところからスタート。研究会で様々な意見が出てきて、それをベースに改正のイメージを作成します。その後、労働政策審議会という大臣の諮問機関で、さらに深いところまで議論。その内容を踏まえて、具体的な法律の条文に落とし込んでいくという流れです。条文に落とし込む時は、いろいろな人と、他の制度との整合性、表現の仕方、法律の中で矛盾がないかなど、様々な視点から検討します。このとき、法律を使う側の経験や国会で審議する側の経験など、過去の様々な経験や知識がすごくプラスになってますね。私の場合はちょっと特殊なキャリアですが、民間企業などでのキャリアが生きるケースはあちこちにあると感じます。中途採用者はいきなり係長からスタートするのですが、自分自身、国家公務員としての知識や経験は周囲の係長と比べると圧倒的に少ない。だけどその分、他の人にはない視点や経験を活かして貢献していきたいと思っています。

### 増田 慧

経験者採用試験【係長級(事務)】

厚生労働省  
雇用均等・児童家庭局 職業家庭両立課 / 平成27年3月入省

司法試験に合格後、アルバイト・司法修習生・参議院議員秘書を経て現職。もともと興味があった『仕事と家庭の両立』をテーマにした部署で活躍中。



## 働きやすい環境で、やりたいことに没頭する。

### 災害被害を、未然に防ぐ。

主に、ため池などの農業水利施設について、ハード・ソフト両面から農村地域の防災減災対策を推進するための補助事業を担当しています。災害が起きてから何かをするのではなく、農地や農業施設を守るために、事前に対策を施しておく。それが、防災・減災という考え方です。私の仕事は、都道府県・市町村等が計画している事業に支援をすることがミッション。大事なのは、地域にとってどういう制度が必要とされているのかきちんと理解しておくこと。そのために、都道府県担当者に集まっていたいで検討会を開催したり、現場に出張したりして、直接話を聞く姿勢を大切にしています。この1、2年だけでも、熊本地震、梅雨前線や台風に伴う豪雨、鳥取地震など、多くの災害が発生しました。このような災害による被害を未然に防ぎ、農村地域の防災減災対策を加速させるために、今、何が必要なのか。現場の声に耳を傾け、広い視点で制度のあり方を検討し、施策の実現につなげていくこの仕事には、とてもやりがいを感じています。

### 結婚しても働きやすい職場。

今後やってみたいのは、それぞれの農村地域の個性を活かした地域振興施策の立案。たとえば北海道なら、広い農地の利点を活

かした大規模経営に取り組むことで安価で大量に作物を生産することができます。一方で、埼玉県や群馬県のような都心から近いところでは、朝採りの野菜をその日のうちに首都圏に移送して新鮮なまま消費者に提供することができる。土地代が高くて、付加価値をつけることで値段とは別のニーズに応えることができるんですね。そういった地域ごとの得意分野を活かした振興に携わりたいと思っています。国家公務員と言うと、何か特別な仕事のように感じ、躊躇してしまうかもしれませんが、大切なのは、それがやりたい仕事かどうか。また、女性の方は、結婚・出産のタイミングでその後のキャリアに悩むこともあると思います。私は入省してすぐに結婚しましたが、周囲の理解もあり、まったく問題なく働き続けることができています。子育てしながら働いている先輩もいて、安心してキャリアアップできる環境ではないでしょうか。挑んでみたい仕事や気になる省庁があるなら、ぜひチャレンジしてみてください。

### 佐久間 千恵

農林水産省経験者採用試験【係長級(技術)】

農林水産省 農村振興局 整備部  
防災課 防災班 防災企画係 係長 / 平成28年4月入省

技術士(農業部門)。独立行政法人勤務を経て現職。農林水産省に出向したことから、大学時代勉強していた農業に幅広く関わる仕事がしたいと思い、転職を決意。



## すべてが今につながっている。

### 求められるのは、 クリエイティブな感性と知性。

新卒で入社したのは、大手ハウスメーカーです。商品開発や営業職を担当しました。8年働き、もともと興味があった社会人大学院に入学。大学院で「複雑で巨大なシステムへの挑戦」というコンセプトに共感するものがあり、改めて就職活動を開始した際、国家公務員が一つの選択肢となりました。入省する前は、正直言って公務員の仕事かどうなのかよく分かっていなかったのですが、働き始めて驚いたのが、予想以上にクリエイティブな仕事だということ。事業や制度をつくるときは、まずその事象を調べ、課題を探し、対応策を洗い出し、その対応策を一つひとつ検証して初めて成立します。これは、前職で経験した商品開発やマーケティングとまったく同じプロセス。私の担当である「まちづくり」も、複雑な事象をそのまま捉えるのではなく、この市街地、この道路、この河川というように一つひとつ分解して捉えて課題を見つけます。そう考えると民間時代も、社会人大学院の経験も、すべてが今につながっている。私が今ここにいるのは、必然だったのかもしれませんが。

### 未来志向の国家公務員試験。

2015年までは岩手県の宮古市に出身しており、東日本大震災からの復興が最大の

責務でした。今は、都市再生整備計画事業(旧まちづくり交付金)を担当しています。地方で主に活用されている事業なのですが、もともと地方市町村のまちづくりに携わりたいと考えていたので、非常にやりがいを感じています。計画通りに事業が完了し、改善された街の姿、その街を訪れる多くの人々を見ることができると、この上ない喜びですね。

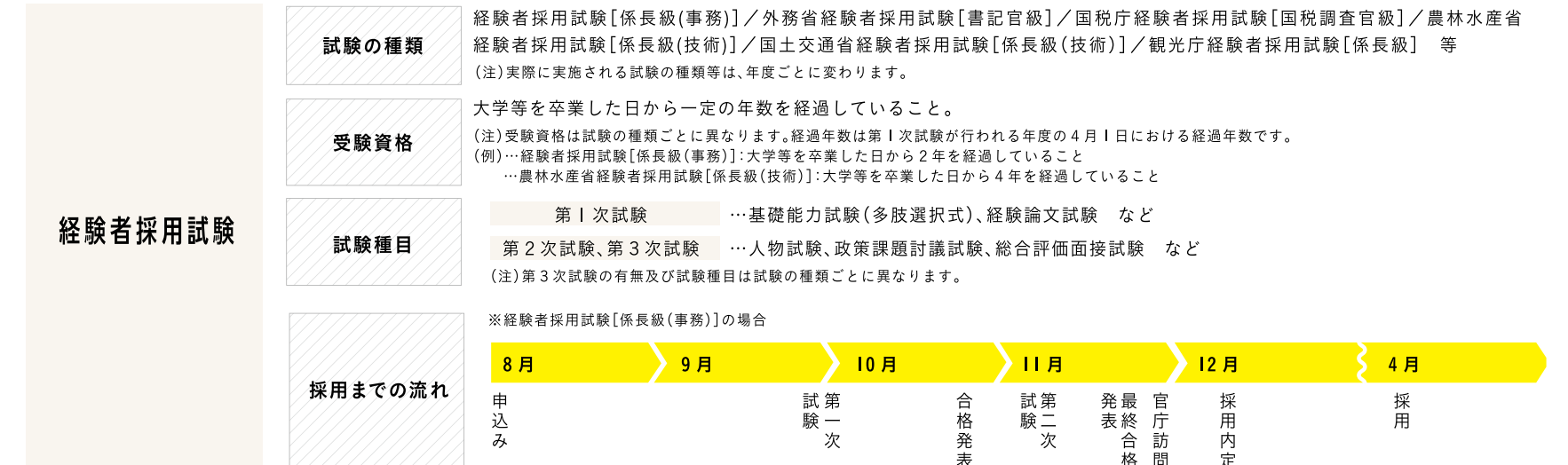
国家公務員は、非常に間口が広いと思います。民間企業の転職試験だと辞めた理由を色々と聞かれますが、国家公務員試験の面接では、今後何をしたいのか、今どういう問題があると思うかなど、非常に未来志向なんです。そして、使命とする事業の領域が非常に幅広いので、その人がどんなことを経験していても、活かせる部分は絶対にあります。自分がやっていることに自信を持っていて、新しいことにチャレンジしたいという想いがあれば、公務員になってからもきっと活躍できると思います。

**高峯 聡一郎** 国土交通省経験者採用試験【係長級(技術)】(相当)

国土交通省 都市局 市街地整備課 課長補佐 / 平成22年4月入省

民間企業、社会人大学院を経て現職。入省後岩手県宮古市に出身し、大震災の復興を担い、現在はまちづくりに携わる。人生の夢は、妻と世界一周の船旅。

## 国家公務員になるには — 中途採用の試験等 —



### 経験者採用試験に関するQ&A

- Q** どのような人材が求められていますか。  
経験者採用試験から採用するに当たり各府省が求める人材は、各府省が所掌する業務に応じて、試験の種類毎に異なります。各府省が求める人材は、受験案内に掲載されているほか、内閣人事局HP内にも掲載(「民間企業の経験者等の中途採用」)していますので、参考にしてください。
- Q** これまで、どのような経験を有している方が採用されていますか。  
採用時の俸給月額(いわゆる基本給)は、採用された方の経験年数と同程度の経験年数を有する国家公務員が受ける俸給月額との均衡を考慮して決定します。経験者採用試験毎の給与については、受験案内に掲載していますので、ご確認ください。
- Q** 採用された場合の給与はどのように決められるのでしょうか。  
採用時の俸給月額(いわゆる基本給)は、採用された方の経験年数と同程度の経験年数を有する国家公務員が受ける俸給月額との均衡を考慮して決定します。経験者採用試験毎の給与については、受験案内に掲載していますので、ご確認ください。

**選考による採用(公募)** 採用試験のほか、公務の活性化のため部内の養成では得られない高度の専門性や多様な経験を有する民間人材の採用、任期を定めた職員の採用、研究公務員の任期を定めた採用など多様な制度により、民間人材の採用の促進を図っています。

➡ 採用試験等の詳細な情報や各府省の公募情報は人事院採用情報NAVIへ ( <http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo/sonota/sonota.htm> )

## 内閣官房内閣人事局

<http://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/jinjikyoku/recruit/>

